

今週（8月6日から8月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、大きな資金需給要因が無かったことから、日銀当座預金残高は小幅な変動に留まり、週を通して385兆円前後での推移となった。

無担保コールO/Nは、週初は▲0.086～▲0.04%程度での出会いであったが、週後半に掛けて徐々にビッドが増え、レート水準も上昇し▲0.075～▲0.02%での出会いが中心となった。これに伴い、加重平均レートも週後半にかけて上昇した。ターム物は、ショートタームを中心に▲0.04～0.00%近辺での出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは10日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,154億円（期落ち額2,554億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.120～▲0.090%程度のレンジで推移した。

週初6～7日のGC T/Nは、▲0.100%前後の水準で推移。8～9日は▲0.120～▲0.090%程度と、ややワイドに推移。10日のT/Nは▲0.100～▲0.090%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5y133～136、10y330～351、20y163～165、30y57～59等に引き合いが多く見られた。特に10y349、10y350、20y165等は、オファーの出難い状況が続いている。

●短国市場

今週の短国市場は、レートの低下により動意の薄いマーケットとなる中、全般的に強含みで推移した。

6日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。応札額が10,681億円と多く、平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回り較差±0.000%と小甘い結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.165～▲0.160%での強めの出会いが見られたこともあり、平均落札利回▲0.1549%、按分落札利回▲0.1451%と事前予想よりも強めの結果となった。セカンダリーでは、▲0.165～▲0.159%出会いと堅調に推移した。

10日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.165%から一時▲0.18%まで買い進まれる展開となったことを受け、平均落札利回▲0.1635%、按分落札利回▲0.1543%と引き続き強めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、夏季休暇を控えての前倒し発行からか、週半ばまではまとまった発行が見られたものの、スタートがお盆となる週後半は案件少なく落ち着いたマーケットとなった。発行額は週間償還総額6,500億円程度に対して、週間発行総額8,500億円程度であった。市場残高は、発行環境の良さから8月に入っても一般事業法人を中心にCPを活用する動きが続いており、9日時点で19兆3,824億円と、前年同時期に比べ3兆円程度増加している。

発行レートは、市場残高が積み上がるにつれて、ディーラーの在庫の膨らみから全体的に若干上昇しており、発行量が膨らんでいる一部の銘柄については、足切りレートが浅いプラス圏まで上昇となった。ただ、それ以外については投資家のキャッシュ潰しニーズから概ね0%が上限となっている。

7日にはCP等買入オペが2,000億円でオファーされた。オファー額が少ないことから、売却出来る銘柄も限られており、按分落札レートは▲0.001%と、前回（▲0.001%）と同水準となった。一方、発行レートが比較的高いリース・ノンバンク銘柄が少なかったことから平均落札レートは▲0.001%と、前回（0.003%）から低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/6（月）	22,507.32	0.100	111.34	△ 0.071	△ 0.100	3,846,800
8/7（火）	22,662.74	0.105	111.33	△ 0.066	△ 0.104	3,852,000
8/8（水）	22,644.31	0.105	111.40	△ 0.060	△ 0.111	3,846,100
8/9（木）	22,598.39	0.110	110.82	△ 0.055	△ 0.106	3,853,700
8/10（金）	22,298.08	0.100	110.88	△ 0.047	△ 0.101	3,844,300

来週（8月13日から8月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/13 (月)					
8/14 (火)					4-6月期のユーロ圏GDP2次速報
8/15 (水)		国有林野借入 966億円 8/27借入			6月の米企業在庫 7月の米小売売上高 7月の米鉱工業生産・設備稼働率 7月の英消費者物価指数
8/16 (木)	7月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 21,000億円 8/20発行	5Y 20,000億円 8/17発行		7月の米住宅着工件数
8/17 (金)	6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 42,500億円 8/20発行	交付税借入 10,500億円 8/28借入		8月のミシガン大消費者信頼感指数速報 7月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/13 (月)	200	▲ 8,300	▲ 8,100	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,600 ▲ 200 1,900	8,400 2,200	9,700	1,600	TB3M発行▲43000償還36000
8/14 (火)	0	▲ 7,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	源泉所得税揚げ TB2M発行中止 交付税借入▲10500期日10500
8/15 (水)	0	85,000	85,000				0	85,000	社会保障費 年金定時払い 2Y償還14700 個人向け3・5・10Y発行▲3900 個人向け3Y償還200
8/16 (木)	0	0	0				0	0	
8/17 (金)	▲ 1,000	▲ 15,000	▲ 16,000	CP買入		2,000	2,000	▲ 14,000	5Y発行▲20000
週 間 合 計	▲ 800	54,700	53,900	—	▲ 900	12,600	11,700	65,600	

8/13は日銀予想、8/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日に向けて、引き続き調達ニーズの強い展開が見込まれる。16日からは新積み期間となり、マクロ加算残高にかかる基準比率が増加（30.5%→33.0%）するものの、影響は限定的か。様子見姿勢から無担保コールO/N加重平均レートは一旦低下することが予想される。レポ市場は、投資家の動向次第ではあるが、▲0.100%前後での推移を予想する。短期市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施予定となっており、堅調な相場が継続するか注目される。CP市場は、大型連休に入る発行体が多く、20日発行の応当日にあたる16日までは閑散なマーケットが予想される。また、16日からはマクロ加算残高にかかる基準比率が2.5%増加するため、投資家のキャッシュ潰しニーズが減退することが予想され、どの程度市場レートに影響するのか、動向が注目される。

主要なイベントとしては、海外では14日に4-6月期のユーロ圏GDP 2次速報、15日に7月の英国CPIなどが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂く場合があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。